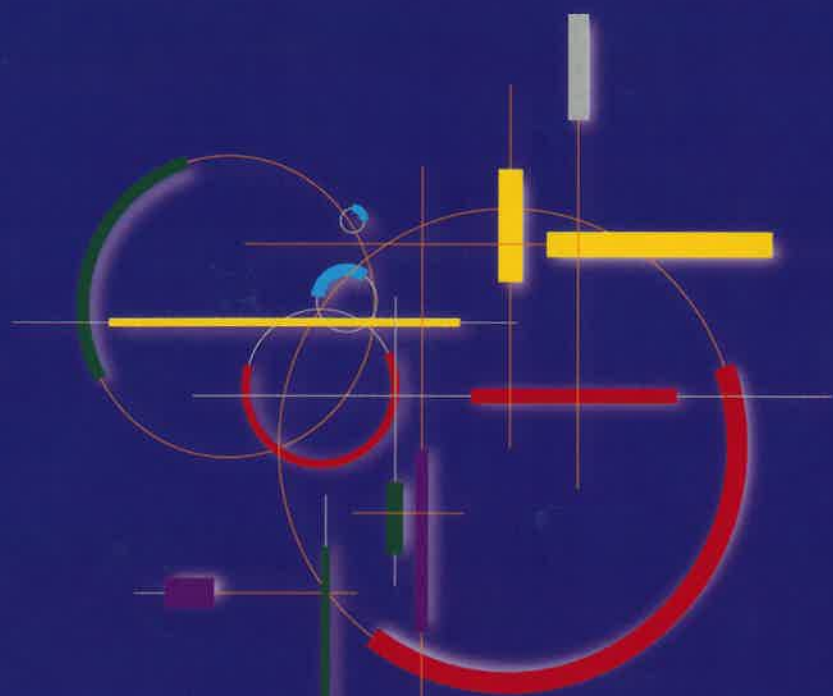


1999年度

# 第5回くまもとアートポリス推進賞



K.A.P

## 第5回 くまもとアートポリス推進賞の選考を終えて

選考委員長 堀内清治

ここ数年来、日本全体が<sup>ひっそく</sup>あたかも逼塞状態とも言うような不況に喘いでいるなかで、平成11年度のアートポリス推進賞の募集が行われた。これに対して、本年度も大変質の高い28件もの応募があった。これは、逆境を乗り越えて、県民のまちづくり、ふるさとづくりに対する意気を示すものとして、慶賀に耐えない。

審査は、例年の手順に従って、書類審査による第1次選考によって12件の候補作品を選び、選考委員一同が揃って現地審査を行い、推進賞2件、推進賞選賞5件を選出した。いずれも大変優れた建築であって、施主、設計者、施工者、地域住民の方々が一丸となった努力と協力の成果である。受賞作品の完成に取り組んで来られた多くの関係者に対して心からお祝いを申し上げたい。

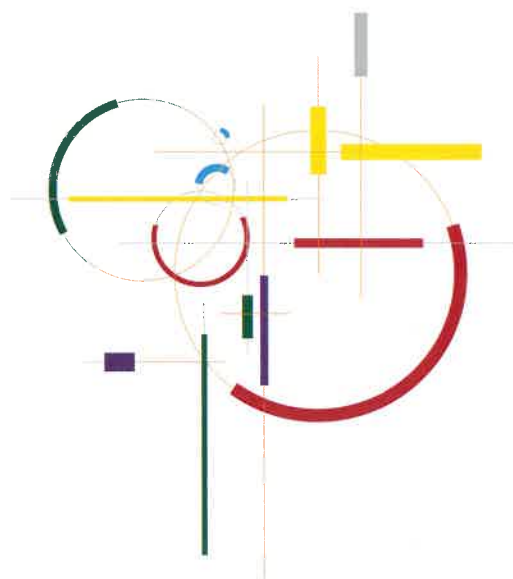
選考委員会の終了後、四方山の雑談の中で、今後のアートポリス推進賞では古い建物のリニューアルや、住宅は、別々の項目に区切って考えたらどうかという意見があった。

どの町にも古くなった建物が充満している。近頃では新しい建物が古くなる時間はどんどん短くなるような気がする。建物が古くなってしまった時、古いものを壊して新しく造りなおすのが日本の流儀であるが、古いものを改修して新しい用途に生き返らせる事が都市の生活環境にとっては極めて有意義であることは言うまでもない。諸外国では既にこの種のリニューアルの仕事が総建築事業の半

分を占めていると言われている。

しかしそのためには、建物が丈夫で長持ちしていることが前提である。自分達の造る建物が丈夫で長持ちすることは、古今東西の人間に共通する願いであった。然し、今の日本人はこの事をすっかり忘れてしまった様に見える。この科学技術の時代に、多くの日本人は石器時代と大差のないほど短命な家に住んでいるのである。お陰で日本の膨大な産業廃棄物の半分は建築廃材と言われている。我々が地球にやさしく生きよう、昔のような重厚で落ち着きのある都市を再建しようとするなら、建物の寿命の延ばすことは、今後避けて通れない道であろう。これは一朝一夕に片づく問題ではないが、それぞれの分野で真剣に考え続けねばならないことは疑いない。

熊本で建築に携わる人達がこの方向でも先進的な成果を挙げて、くまもとアートポリスに新しい進路を推進してくれるのを切望している。





## 水上村立 湯山小学校

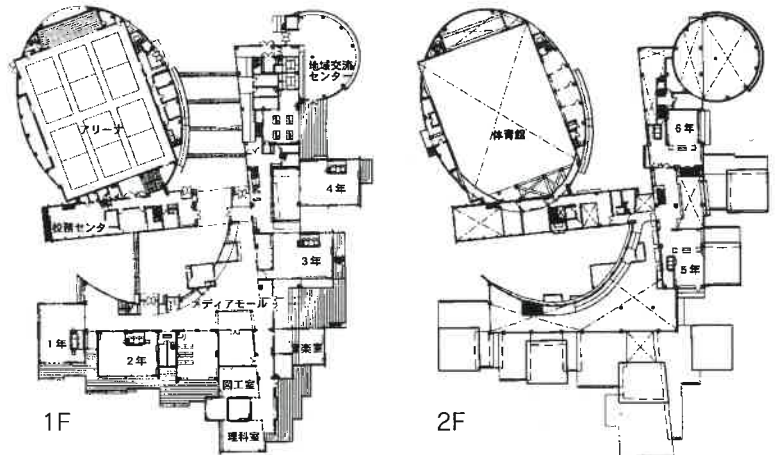
事業主 ■ 水上村  
 設計者 ■ (株)川崎設計事務所  
 施工者 ■ 味岡・今村建設工事共同企業体  
           人吉電気工事(株)  
           (株)球磨電設  
           (株)九電工多良木営業所  
 所在地 ■ 球磨郡水上村湯山412  
 竣工 ■ 平成10年10月  
 用途 ■ 学校  
 階数 ■ 2階  
 構造 ■ 木造+鉄筋コンクリート造  
 敷地面積 ■ 18,720.30㎡  
 建築面積 ■ 3,922.76㎡  
 延床面積 ■ 4,636.30㎡

県南を代表する山、市房の峰が近くに迫る山あいの小学校。児童数六十余人、一学級十人前後。そんな小規模にして、校内に入ると広いオープンスペース、幅広い廊下、天井の高い体育館—どれをとってもゆとりたっぷりの空間が広がる。

改築が決まると学校をどんな場にしたいか、何が必要か、設計者は住民や行政、学校関係者との話し合いを繰り返した。過程もまた「開かれた学校」だったわけだ。結果、校舎に連動して地域交流センターも出来た。地元企業への発注、地場産材を多用するなど、名実ともに「地元産」校である点も特筆される。

「ぜいたく過ぎる」との声もあるかもしれない。けれど、子どもたちは小学校を出れば数キロ離れた中学校へ、高校はさらに遠くへと通う。つまり古里で学ぶのはここが最初で最後。ならばこの程度は許されるのではないか。住民に見守られ、誇らしげな校舎と環境の中で十分に育ってほしいと願うのである。

松下純一郎

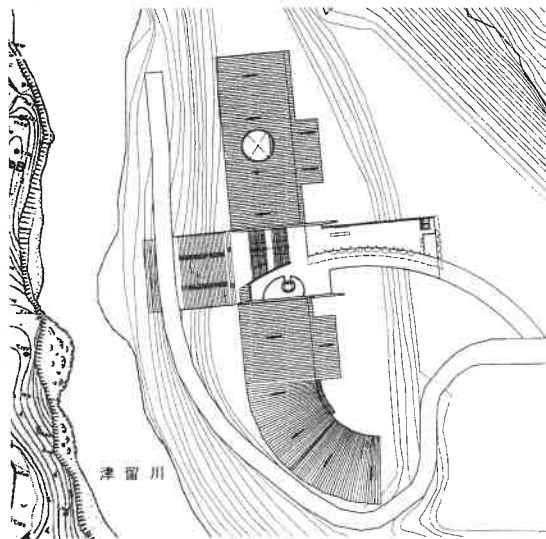






## 中央町総合交流ターミナル 「石段の郷 佐俣の湯」

事業主 ■ 中央町  
 設計者 ■ (有)SDA建築設計事務所  
 施工者 ■ (株)さとうベネック熊本支店  
 所在地 ■ 下益城郡中央町佐俣705  
 竣工 ■ 平成10年10月  
 用途 ■ 公衆浴場、店舗、加工所  
 階数 ■ 2階  
 構造 ■ 木造一部鉄筋コンクリート造及び鉄骨造  
 敷地面積 ■ 26,075.25㎡  
 建築面積 ■ 2,085.11㎡  
 延床面積 ■ 1,868.65㎡



The building runs along one edge of a beautiful river valley. It has been designed with a very simple character so that it does not dominate the scenery. The only expressive part is, appropriately, the entrance - which is a tall arch which frames a view towards the trees on the opposite river bank, and in which a tall tree-trunk stands as a symbol of the building's union with nature.

The architecture is 'quiet', but also extremely inventive and original. And, every part, whether large or small, has been designed with great care. The onsen baths, and the external baths, are extraordinarily beautiful spaces.

It is because of the architect's careful, sensitive design, that the later additions to the building are regrettable. The management is obviously proud of the building, but an ugly extension to the shop, messy interior and exterior signs, clumsy furniture, and unnecessary flowerpots, have all been added in ways which do not co-ordinate with the calm simplicity of the architecture. But, although these additions reduce the quality of the building, the clarity of the architect's original vision still remains, and we can see how he has responded to the location and to the function with great sensitivity.

Tom Heneghan

### (翻訳)

この建物は美しい渓谷の縁に沿って広がっている。それは極めて素朴な心でデザインされていて、あたりの風景を支配しようとはしていない。ただ一つ表情豊かな部分は、当然、入り口である。それは高いアーチになっていて、対岸の木々を望める額縁となり、その中には高い木の幹が、自然と一体化しようとするこの建物の印象として立っている。

建築家が心をこめた繊細なデザインがあるために、後から付け加えられたものは悔やまれる。その管理は建物に善かれと考えての事であるのは間違いないが、店舗の不格好な拡張、乱雑な内外のサイン類、不似合いな家具、不必要なフラワーポット等々はどれもこの建築の穏やかな単純さとは整合しない。然し、それらがこの建物の質を落としているものの、建築家の当初のビジョンであった建築の明快さはなお残っており、この場所と用途に対して建築家が如何に優れた感性をもって応えようとしたかを見る事が出来る。

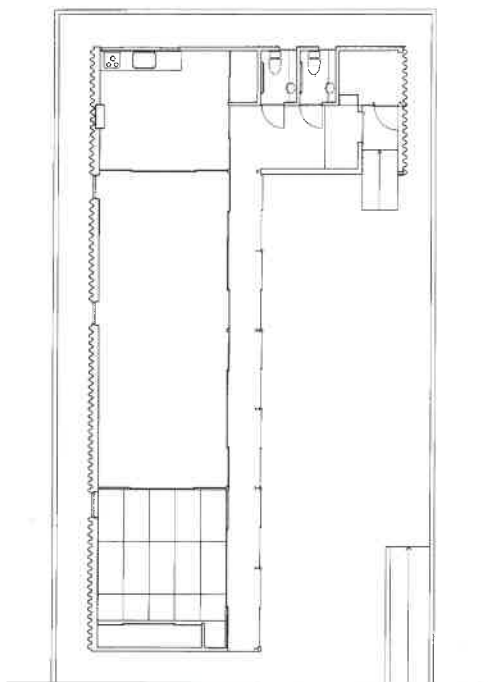
トム ヘネガン





## 植柳新町公民館 (地域学習センター)

事業主 ■ 植柳新町町内会  
 設計者 ■ みかんぐみ  
 施工者 ■ (株)米本工務店  
           大栄設備工業(有)  
 所在地 ■ 八代市植柳新町2丁目16-5  
 竣工 ■ 平成11年1月  
 用途 ■ 公民館  
 階数 ■ 1階  
 構造 ■ 鉄骨造  
 敷地面積 ■ 283.50㎡  
 建築面積 ■ 127.43㎡  
 延床面積 ■ 124.42㎡



これ以上簡明率直な構成は考えられないほど、徹底した合理化と単純化を達成した建築である。しかし、多様な用途とローコストという条件に対して、プラン、構造、材料、意匠の全ての面に誠実で入念な検討の跡が窺える。あまりにドライなデザインについて、果たして住民の満足が得られるかという外来者の疑問に対しても、16年間にわたる特異な建設過程が答えてくれる。このような小規模の建築に、町内建設委員会の設置、各戸からの資金積み立て、指名設計競技、町内総会による選定、建設委員会の設計監理というプロセスが適用されたことには敬服のほかはない。迷走する現代建築の状況に一石を投ずる作品である。

桐敷真次郎







# シルワ・エッセ

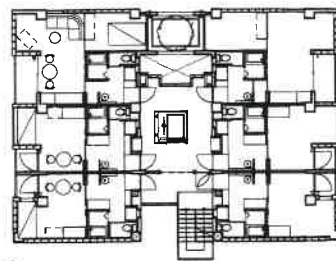
事業主 ■ 森上孝雄  
 設計者 ■ (有)ロクス  
 施工者 ■ (株)岩永組  
 所在地 ■ 熊本市江越1丁目8-22  
 竣工 ■ 平成11年2月  
 用途 ■ 店舗、事務所、共同住宅  
 階数 ■ 5階  
 構造 ■ 鉄筋コンクリート造  
 敷地面積 ■ 466.80㎡  
 建築面積 ■ 245.86㎡  
 延床面積 ■ 904.04㎡

今年もアートポリス推進賞対象のプロジェクトを12件見学した。いずれも様々な制約の中で作り上げられたものであるが、敷地の条件としては、郊外や田園の中で、比較的恵まれているものが多かった。

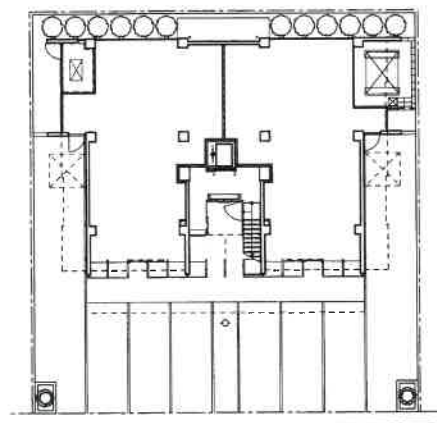
その中で、この「シルワ・エッセ」という住居、店舗からなる複合ビルだけが、都市的状况の中に建っていた。

メゾネット形式を採用した住居ユニット内でのさまざまな工夫、「チャンネル」と称した共有領域の開放性、街へ開かれた表情を持つとする傾いたガラス・スクリーンなど、設計者のエネルギーを感じるプロジェクトであった。次回もこのような都市的状况の中で奮闘するプロジェクトがアートポリス推進賞に登場することを期待したい。

早川邦彦



2F



1F





## くぬぎ 50M-檜の森美術館

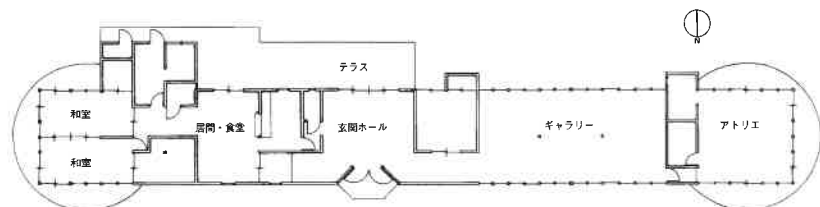
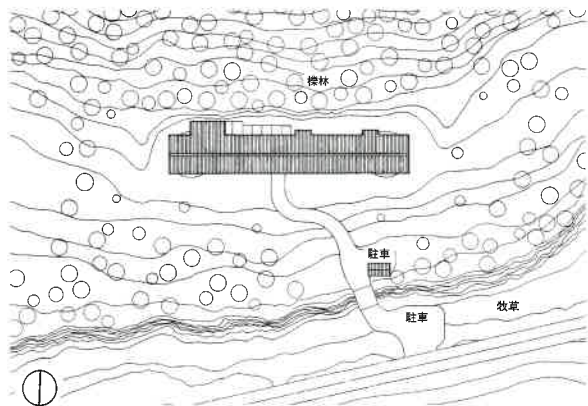
事業主 ■吉村郁夫  
 設計者 ■桂英昭+A・I・R  
 施工者 ■(有)鳩野建設  
 所在地 ■阿蘇郡小国町西里麻生鶴2053-19  
 竣工 ■平成10年8月  
 用途 ■住宅、ギャラリー  
 階数 ■1階  
 構造 ■木造  
 敷地面積 ■10,314㎡  
 建築面積 ■279.77㎡  
 延床面積 ■277.06㎡

20世紀の美術館の多様化の一つを表現した建築。  
 標高約750mの広大な高原・牧草地中央に檜の森を背景にした立地。

間口約6m、長さ約50mの細長い矩形の箱型は、一見単純で素朴にみがちだが、画廊としてのコンセプトは、クライアントの画家としての深い思いがある。この住空間を併せ持つ美術館を媒体として過疎地の活性化を図り、人里離れた高原がぬくもりのある文化発信地となることを構想している。

地場産材の小国杉を活用し、地元の大工技術で建設され独自性に富んだ美術館は、四季に彩られ、親しみ易く存在感を大きくしていくと確信する。

陣内ヒロミ







## 宮崎耳鼻科

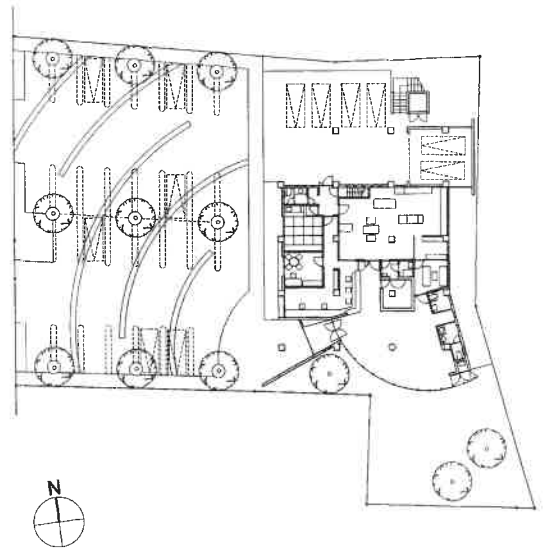
事業主 ■ 宮崎代介  
 設計者 ■ かわつひろし建築工房  
 施工者 ■ (株)岩永組  
 所在地 ■ 熊本市萩原町  
 竣工 ■ 平成10年1月  
 用途 ■ 診療所併用住宅  
 階数 ■ 2階  
 構造 ■ 鉄筋コンクリート造  
 敷地面積 ■ 955.03㎡  
 建築面積 ■ 349.07㎡  
 延床面積 ■ 540.56㎡

宮崎耳鼻科は、交通量の多い、密集した地域印象の中にあつて、道路に面した広い駐車場空間が、まず目をひく。その奥にある建物は前面外装にステンレスルーバーを施し、1階が医院、2階が住居となっている。医院部分は、待ち時間の子供たちが遊ぶ、芝生のプレイヤードのみどりも含めて清潔な爽やかさを率直に感じることができる。また、2階の住居部分については、余裕を感じさせる豊かな構成になっており、好感が持てる羨ましくなるような快適職住一体型の建物である。2階テラスの床材イペ(ブラジル産・鉄木)も印象深い。

轟多朗



撮影:小野正樹(上2点とも)





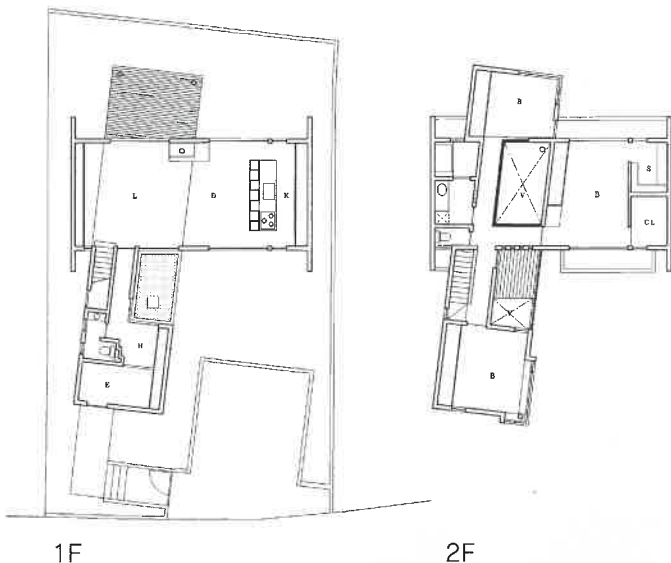


## 矢野邸

事業主 ■ 矢野敏之  
 設計者 ■ 森繁・建築研究所  
 施工者 ■ (株)レキセイ  
 所在地 ■ 熊本市横手  
 竣工 ■ 平成11年3月  
 用途 ■ 専用住宅  
 階数 ■ 2階  
 構造 ■ 木造  
 敷地面積 ■ 291.53㎡  
 建築面積 ■ 86.92㎡  
 延床面積 ■ 156.30㎡

矢野さんのお宅は眺めの良い高台にある。そこは昔からの町の喧噪を離れ静かな所として知られた丘陵地である。坂道を登りつめた辺りに、二つの白い直方体がほぼ直交に重なった建築、矢野邸がある。さりげなく意匠された門を通して、玄関は快く客を迎える。可愛らしいお嬢さん二人、4人家族の室内は丁寧に漆喰で仕上げられ健やかで明るい。設えられた家具や調度は直方体の空間に整然とした秩序を造っている。開放的に見せながら隠れるところもちゃんとある。そこに見える物は明確な家族の意志、生活スタイルの意識である。直方体が造る外部空間は道路や隣接する敷地との適度なプライバシーを保ちながら、玄関アプローチや庭などの必要な生活の場をも程よく提供している。設計者と施工者は施主のライフデザインをよく表現している。

渡辺定夫



# 受賞作品 位置図

## くまもとアートポリス推進賞

1999年度 第5回



25 水上村立湯山小学校  
[球磨郡水上村]



26 中央町総合交流ターミナル  
「石段の里 佐俣の湯」  
[下益城郡中央町]



27 植柳新町公民館  
(地域学習センター)  
[八代市]



28 シルワ・エッセ  
[熊本市]



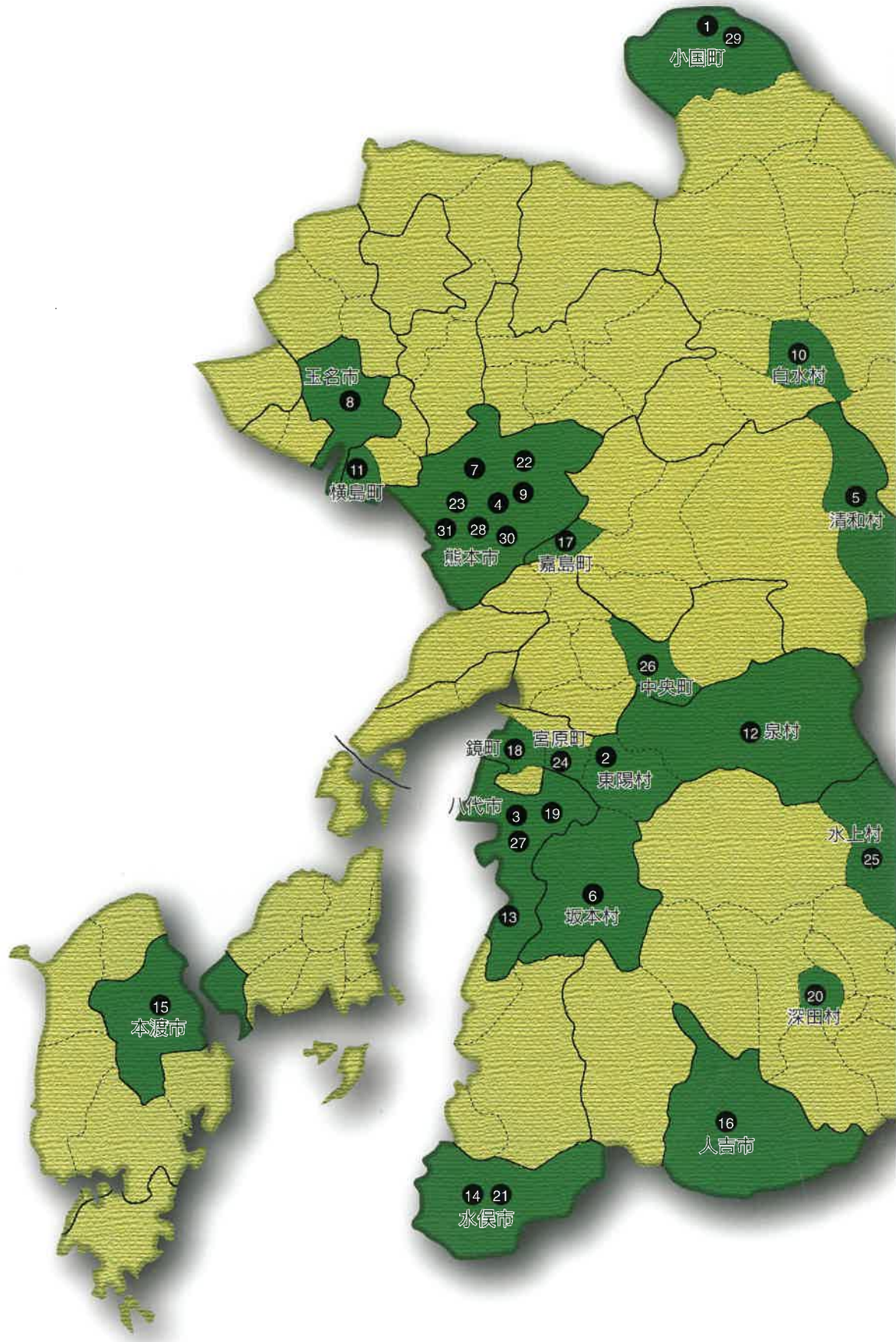
29 50M-木の森美術館  
[阿蘇郡小国町]



30 宮崎耳鼻科  
[熊本市]



31 矢野邸  
[熊本市]



撮影：①神原陽一 ③岡本公一 ④富重清治 ⑤石丸捷一



1998年度 第4回



18 ■ 老人保健施設 かがみ苑  
[八代郡鏡町]



19 ■ 熊本県信用保証協会  
八代支所  
[八代市]



20 ■ HOUSE:H-M  
[球磨郡深田村]



21 ■ 水俣市保健センター・  
水俣市総合もやい直しセンター  
[水俣市]



22 ■ 古閑邸  
[熊本市]



23 ■ 聖母の丘  
[熊本市]



24 ■ 宮原町下宮はまどん公園  
[八代郡宮原町]

1997年度 第3回



12 ■ 久連子古代の里  
[八代郡泉村]



13 ■ 養護老人ホーム  
八代市立保寿寮  
[八代市]



14 ■ 水俣市管洗切団地  
[水俣市]



15 ■ 丸尾焼工房  
[本渡市]



16 ■ 人吉の舎Ⅱ/平井邸  
[人吉市]



17 ■ 浮島周辺水辺公園  
[上益城郡嘉島町]

1996年度 第2回



9 ■ 慈愛園ノーマンホーム  
[熊本市]



10 ■ 阿蘇白水温泉「瑠璃」  
[阿蘇郡白水村]



11 ■ ふるさとセンターY・BOX  
[玉名郡横島町]

1995年度 第1回



1 ■ 小国町立西里小学校  
[阿蘇郡小国町]



2 ■ 東陽村石匠館  
[八代郡東陽村]



3 ■ 八代広域行政事務組合  
消防本部庁舎  
[八代市]



4 ■ 野田市兵衛商店  
流通団地営業所  
[熊本市]



5 ■ 清和物産館  
(四季のふるさと)  
[上益城郡清和村]



6 ■ 荒瀬ダムポートハウス  
[八代郡坂本村]



7 ■ 出田眼科病院  
[熊本市]



8 ■ 尚玄山荘  
[玉名市]

■ …くまもとアートポリス推進賞  
■ …くまもとアートポリス推進賞選賞

# 第5回くまもとアートポリス推進賞

## ■ 募集要項

### ■ 趣 旨

熊本県は、環境デザインに対する関心を高め、都市環境並びに建築文化の向上を図るとともに、世界への文化情報発信地「熊本」を目指し、後世に残しうる文化的資産を創造するため、「くまもとアートポリス」を推進しております。

この事業の目的を達成するため、コミッショナーが国の内外から推薦した設計者を参加事業主に紹介するプロジェクト事業や、各種イベントの実施、広報事業等を行い、さらに幅広く県民の皆様のご理解を深めていただくため、平成7年から「くまもとアートポリス推進賞」の表彰を実施しています。

この賞は、質の高い優れた建造物等を顕彰することにより、県民の環境デザインに対する意識の高揚と、都市環境並びに建築文化の向上を目指し、あわせて豊かな地域づくりを図ることを目的にしております。

### ■ 表彰対象

平成11年3月以前、概ね5年以内に竣工(改造、改修、修復を含む。)した熊本県内の建築物、橋、公園、記念碑等の建造物及びそれらで構成された一群の施設等(くまもとアートポリス参加プロジェクト及び県の施設を除く。)とします。

### ■ 選考基準

本賞の選考は建造物等の企画、設計、施工及び施設の運用等に関する総合評価に基づき行います。評価のポイント

- ・優れたデザインを有しているもの。
- ・新しい技術的提案や工法の改善がなされているもの。
- ・良好な施工が行われているもの。
- ・ひとや環境にやさしい配慮がなされているもの。
- ・施設の活用に創意工夫がみられるもの。
- ・維持・管理が良好なもの。
- ・地域づくりに寄与しているもの。

### ■ 賞

賞は「くまもとアートポリス推進賞」、「くまもとアートポリス推進賞選賞」とします。

事業主(必要に応じて管理者を含む。)、設計者及び施工者に知事が表彰状を贈ります。また、事業主に銘板を贈ります。

### ■ 応募資格

自薦、他薦を問わず、どなたでも応募できます。

## ■ 選考委員会

- 委員長 堀内 清 治(熊本大学名誉教授)
- 委 員 大久保太郎(熊本経済同友会副代表幹事)
- 〃 桐敷真次郎(東京都立大学名誉教授)
  - 〃 陣内ヒロミ(元 慈愛園パウラスホーム施設長)
  - 〃 轟 多 朗(熊本県文化協会理事)
  - 〃 早川 邦 彦(早川邦彦建築研究室代表)
  - 〃 トム・ヘネガン(アーキテクチャーファクトリー代表/  
工学院大学教授)
  - 〃 松下純一郎(熊本日日新聞社文化生活部次長兼論説委員)
  - 〃 渡 辺 定 夫(工学院大学教授)

## ■ 選考経過

- 募 集 平成11年9月1日～10月8日 応募総数:28件
- 書類選考 平成11年11月2日
- 現地審査 平成11年11月27日～29日 現地審査件数:12件
- 最終選考 平成11年11月29日 受賞件数:7件
- 表 彰 式 平成12年2月10日

## 熊本県

### 土木部建築課

〒862-8570  
熊本市水前寺6丁目18-1  
tel:096-383-1111(内線6215)  
fax:096-384-9820  
インターネットホームページ:<http://www.artpolis.net/>



# 第5回

# くまもとアートポリス推進賞 作品募集

## 趣旨

熊本県は、環境デザインに対する関心を高め、都市環境並びに建築文化の向上を図るとともに、世界への文化情報発信地「熊本」を目指し、後世に残しうる文化的資産を創造するため、「くまもとアートポリス」を推進しております。

この事業の目的を達成するため、コミッショナーが国の内外から推薦した設計者を参加事業主に紹介するプロジェクト事業や、各種イベントの実施、広報事業等を行い、さらに幅広く県民の皆様のご理解を深めていただくため、平成7年から「くまもとアートポリス推進賞」の表彰を実施しています。

この賞は、質の高い優れた建造物等を顕彰することにより、県民の環境デザインに対する意識の高揚と、都市環境並びに建築文化の向上を目指し、あわせて豊かな地域づくりを図ることを目的にしております。



老人保健施設かがみ苑(八代郡鏡町)



熊本県信用保証協会八代支所(八代市)



HOUSE H-W(球磨郡深田村)



水俣市保健センター  
水俣市総合もやい直しセンター(水俣市)



古閑邸(熊本市)



聖母の丘(熊本市)



宮原町下宮はまどん公園(八代郡宮原町)

第4回 くまもとアートポリス推進賞選賞受賞作品

熊本県

Kumamoto

## 募集要項

### 表彰対象

平成11年3月以前、概ね5年以内に竣工（改造、改修、修復を含む。）した熊本県内の建築物、橋、公園、記念碑等の建造物及びそれらで構成された一群の施設等（くまもとアートポリス参加プロジェクト及び県の施設を除く。）とします。

### 選考基準

本賞の選考は建造物等の企画、設計、施工及び施設の運用等に関する総合評価に基づき行います。

#### 評価のポイント

- ①優れたデザインを有しているもの。
- ②新しい技術的提案や工法の改善がなされているもの。
- ③良好な施工が行われているもの。
- ④ひとや環境にやさしい配慮がなされているもの。
- ⑤施設の活用に創意工夫がみられるもの。
- ⑥維持・管理が良好なもの。
- ⑦地域づくりに寄与しているもの。

### 賞

賞は「くまもとアートポリス推進賞」、「くまもとアートポリス推進賞選賞」とします。

事業主（必要に応じて管理者を含む。）、設計者及び施工者に知事が表彰状を贈ります。また、事業主に銘板を贈ります。

### 募集期間

平成11年9月1日から10月8日まで。なお、郵送の場合は当日消印有効とします。

### 応募資格

自薦、他薦を問わず、どなたでも応募できます。

### 応募方法

応募用紙に必要事項をご記入のうえ添付資料を添えて、熊本県土木部建築課アートポリス班まで提出して下さい。応募者は、あらかじめ事業主、設計者、施工者の了解を得て下さい。

### 選考委員会

#### 委員長

堀内清治（熊本大学名誉教授）

#### 委員

大久保太郎（熊本経済同友会副代表幹事）

桐敷真次郎（東京都立大学名誉教授）

陣内ヒロミ（慈愛園パウラスホーム施設長）

轟多朗（熊本県文化協会理事）

早川邦彦（早川邦彦建築研究室代表）

トム・ヘネガン（アーキテクチャーファクトリー代表/工学院大学教授）

松下純一郎（熊本日日新聞社文化生活部次長兼論説委員）

渡辺定夫（工学院大学教授）

（五十音順）

### 発表

平成12年1月（予定）、該当者及び全応募者に通知いたします。

### 表彰

平成12年2月（予定）、表彰式を行います。

### その他

応募資料は返却しませんので、必要な場合はあらかじめ各自複写をお願いします。

### 提出先・問合せ先

熊本県土木部建築課アートポリス班

〒862-8570 熊本市水前寺6丁目18番1号

TEL: 096(383)1111（内線6215）

FAX: 096(384)9820

インターネット・ホームページ: <http://www.artpolis.net/>



# 第5回 くまもとアートポリス推進賞 応募用紙

## 応募者

【氏名・所属等】 ..... 【電話番号】 .....  
【住所】〒 ..... 【FAX番号】 .....

## 対象建造物等

【名称】 ..... 【用途】 .....  
【所在地】 .....  
【竣工年月】平成 年 月 【構造】 ..... 【階数】 .....  
【敷地面積】 ..... m<sup>2</sup> 【建築面積】 ..... m<sup>2</sup> 【延床面積】 ..... m<sup>2</sup>

- 対象建造物に関する以下の項目についても、なるべく記入して下さい。なお、よくわからない項目は記入しなくても結構です。  
管理者は特に推薦するに値すると思われる場合にご記入下さい。
- 建築物以外については、項目を適宜修正してご記入して下さい。

## 事業主

【氏名・社名】 ..... 【電話番号】 .....  
【住所】〒 ..... 【FAX番号】 .....

## 設計者

【氏名・社名】 ..... 【電話番号】 .....  
【住所】〒 ..... 【FAX番号】 .....

## 施工者

【氏名・社名】 ..... 【電話番号】 .....  
【住所】〒 ..... 【FAX番号】 .....

## 管理者等

【氏名・社名】 ..... 【電話番号】 .....  
【住所】〒 ..... 【FAX番号】 .....

- 以上の欄で記入しきれない場合は、下欄に記入して下さい。

【事業主等の別】	【社名・氏名】	【住所】	【電話番号】

## 添付資料

- 写真 外観および内観の写真をA4版の用紙2枚以内に貼り付けして下さい。内部写真が撮れない場合は外観写真だけでもかまいません。
- 図面 施設の内容がわかる図面などを、A4版の用紙2枚以内に貼り付けして下さい。

